

ピロー包装の機械化で生産性アップ、時間短縮 ボトルネック解消で、マンパワーの有効活用も



長年愛され続けている自社オリジナルブランド

実施事業 ▶ 動物用医薬品製造設備の導入による省力化と安定供給への対応

三宝製薬株式会社

企業情報

〒969-0304 福島県白河市大信下新城字東区 2-5 ☎ 0248-46-3311 FAX 0248-46-3490
<https://www.sampo-seiyaku.co.jp/> E-mail info-fukushima@sampo-seiyaku.co.jp

事業者名 ▶ 代表取締役社長 渡邊 康一
 設立年月 ▶ 1932 年 2 月 資本金額 ▶ 5,400 万円 従業員数 ▶ 44 人

会社概要

本社は、東京都新宿区下落合にあります。福島工場は昭和 58 年、白河市への誘致企業として操業を
 始めました。90 年近く受け継がれてきた経営理念は「宇宙の真理に副って考え行動する」（創業者・
 渡邊久吉）。外傷用軟膏「トフメル A」は草創からの製品です。このほか医薬品の歯みがき粉、総合感
 冒薬・漢方製剤、外用剤など十数品目を製造販売する医薬品メーカーとして、かけがえない生命へ
 の貢献は続きます。全国の薬局薬店との間に直販ルートを広げ、大手製薬会社との取引も拡大基調です。



次代へのプロジェクトに社内リソースを投入

機械化で、製造フローのボトルネックを改善



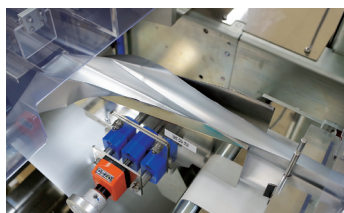
最新鋭の横型ピロー包装

医薬品へのニーズが多様化・高度化し、マーケットは安定的な拡大傾向
 です。医療現場での有用性を追求して製品化を目指すプロジェクトへの参
 画を通して、当社の存在感が高まってきました。医薬品開発のノウハウ・
 製造体制など、自社リソースを最大限に投入することでビジネスチャンス
 が生まれます。

当社で製造した医薬品は、業界上位クラスの販社へ納品しており新製品
 が承認されるたび売り上げが増えています。先発品の製造・販売が中止され、
 現在では当社が安定供給を担うケースも。ピロー包装の工程が手作業で行
 われ、製造フローのボトルネックとなっている点の解消へ向けて改善策が
 講じられました。

日常化していた工程の改善点をチェック

それらの原因、解決の糸口を全社で共有



自動化により時間を短縮

さまざまな課題の解決へ向けて思考を巡らせ、ピロー包装を手作業で行うことの現状を検証しました。

いくつかのデータを整理すると、ある程度の時間を費やすことが明白でした。すなわち、1個あたり49.83秒。年間生産個数を29万個として、約4000時間を要する計算です。ちなみに平成3年と比較すると、ピロー包装の個数は30万個を突破しており、受注が大きく伸びてきた経緯を裏付けています（平成23年/127,356個⇒平成29年/360,000個）。

納期へ対応するため、残業や休日出勤のシフトを余儀なくされる。包装室では、仕掛け品のスペースを広く割かねばならない。限られた狭い場所に各種製品が置かれるので、混入ミスが懸念される。連続作業として進められないので、どうしても滞留在庫が生じてしまう。こうした状況に対応すべく他部署のスタッフがサポートに出向くと、本来の業務が疎かになってしまうことも共有すべき課題に挙げられました。

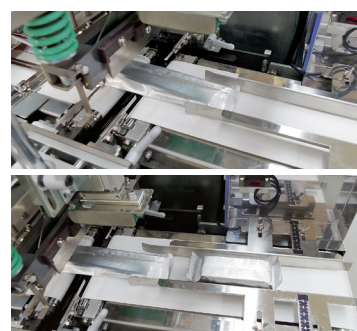
1個あたり、作業員数は最大11名から4名へ

所要時間は約50秒から3秒に、と大幅に短縮

医薬品製造工程で唯一、手作業で行われていたピロー包装。その機械化が急務との結論を踏まえて最新鋭型・横型ピロー包装機を導入しました。

従来の工程は【インクジェットプリンターで、コンペアを使って印字/2名⇒ピロー袋を型に入れて広げる。PTPシートを袋へ入れ、コンテナへ戻す/4~5名⇒ヒートシーラーを用いて熱で溶着させる/1~2名⇒重量を確認/2名⇒延べ9~11人:4983秒】という流れです。これに対し、横型ピロー包装機を導入すると【内蔵サーマルプリンターで印字/1名⇒ピローの袋入れ、シール溶着は、本体機能/1名ずつ⇒自動計量/1名⇒延べ4名:3.0秒】という結果でした。

作業員数は最大11名から4名へ減員、約3分1まで省力化できるメドが立ちました。さらに所要時間は、約50秒から3秒へと大幅に短縮されました。



人員削減で効率化に成功

マンパワーの適正配置、採用増も見越して

医薬品・医薬部外品・化粧品の増産と安定供給へ



ピロー包装完成品

医薬品市場のトレンドを反映し、さらなる新製品の受注増にも対応できる頼もしい設備が加わりました。ピロー包装の機械化で生産力向上が図られたことにより、かねてから指摘されてきた数々の課題は解消しました。残業や休日出勤が減り、安全・衛生面のリスク低減も顕著です。自社販売医薬品・医薬部外品・化粧品とともに、受託製品の増産と安定供給へ向

けて万全の態勢で臨めるのは全社的な朗報です。

省力化できる5~7名のマンパワーに関しては、兼務を解けます。本来の担当業務に専念したり、別部門へ異動したりする人事的なオプションを実行できるようになりました。増産を見越して人材確保など、雇用にも波及効果が広がります。

Comment

たゆまぬイノベーションで
医薬品を創ります。

代表取締役社長
渡邊 康一



85年という長きに渡り、当社は大衆薬メーカーとして歩んできました。その代名詞と言えるのが、創業から続く外傷用軟膏「トフメルA」です。医薬品の歯みがき粉「三宝歯ぐきみがき」、ブラセーター軟膏として日本で唯一の医薬品「バルモア」、二重構造チューブを採用した「デントパールW薬用歯磨き」も代表的な製品に挙げられます。創薬・製剤に関するファブレス企業との連携では、研究開発および臨床試験に基づくイノベーション指向を深めています。国内外の市場動向を見据え、医薬品開発を巡る知見と技術を蓄積しています。